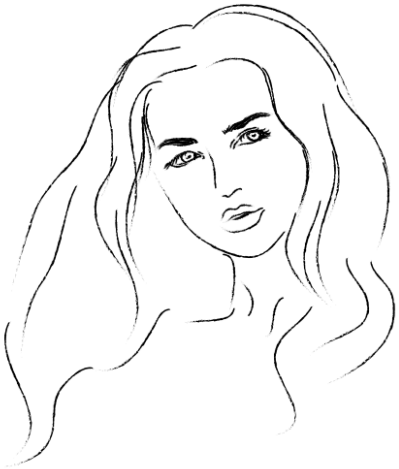
春(はる)と雨(あめ)

文
Annie Tatooles
アニー・タトゥーレス

READING LEVEL
TWO

JAPN 3302: ADVANCED JAPANESE SPRING 2021

ある日、女の人は森を歩いた。女の人は長い髪をしていて、青い目をしている美人だった。その上、美人は本当に優しい人だった。森で道に迷った人を助ける、けがをした動物を助けてあげた。女の人の名前はメーリだった。メーリは小さい町に住んでいた。そこで、美人のメーリはお金もちの家族がいたけれど、美人のメーリはとても謙虚で、みんなさんはその女の人が好きだった。



それで、メーリは森を歩いている時に、けがをした鳥を見た。羽が折れていて、何もできなかった。木から三角巾を作ったり、樹液から包帯を作ったりしたが、無駄だった。その時、優しい顔をした男の人が来た。羽を直してあげた。メーリはびっくりして、「お名前は何ですか」と聞いた。男の人は「私は春」と答えたら、森に帰った。メーリが町に帰ったら、町に住んでいる人と話した。その男の人を知っているかと探したけれど、何も分からなかった。「変だ」と思った。

それで、三年後に、メーリは町にいた。鳥を助けた男の人のことをほとんど忘れた。あそこから、毎日、町に行ったら、町に住んでいる人と話して遊んだ。湖で泳いだり、人とアハハと笑ったり、桜の花を見た。楽しい生活だったから、メーリはとても嬉しかった。ある日、メーリは友達と桜を見ていたら、桜の花束を持っている男の人が来た。メーリの近くに座った。友達がクスクスと笑った、男の人はメーリに花束をくれて話し出した。

「私(わたし)は雨(あめ)と申(もう)します。あなたは本当(ほんとう)に美人(びじん)ですよ。私(わたし)が会(あ)った女(おんな)の人(ひと)の中(なか)で、一番美人(いちばんびじん)ですよ。一緒(いっしょ)に、晩(ばん)ご飯(はん)を食(た)べましょうか。」メーリはびっくりしたが、その男(おとこ)の人(ひと)がかっこよくて自信(じしん)がありそうだったから、心臓(しんぞう)がドキドキしていた。小(ちい)さい声(こえ)で「ぜひ、いつ会(あ)いましょうか」答(こた)えた。雨(あめ)は「ここで明日(あした)の七時(ななじ)に会(あ)いましょうか。名前(なまえ)はなんですか。」と言(い)った。「メーリと申(もう)します。」と答(こた)えた。男(おとこ)の人(ひと)は「それでは、また明日(あした)。」と言(い)って、帰(かえ)った。

デートに行(い)ったことがないから、メーリは嬉(うれ)しかった。家(うち)に帰(かえ)ってから、デートについて両親(りょうしん)と話(はな)した。両親(りょうしん)も嬉(うれ)しかったけれど、ちょっと疑問(ぎもん)があった。「その男(おとこ)の人(ひと)はどんな人物(じんぶつ)かなあ。メーリの魅力(みりょく)は美人(びじん)だから。」と考(かんが)えた。メーリは嬉(うれ)しかったけど、まだ何(なに)も分(わ)からなかったから、何(なに)も言(い)えなかった。

デートのために、有名(ゆうめい)なレストランに行(い)って、元気(げんき)に話(はな)した。メーリの好(す)きなこととかメーリの興味(きょうみ)とか、メーリのことについて全部(ぜんぶ)を話(はな)した。後(あと)で、メーリは雨(あめ)についてのことをあまり知(し)らなかった。だけれど、人達(ひとたち)は自分(じぶん)について話(はな)すのが好(す)きだから、メーリは嬉(うれ)しかったけど、その理由(りゆう)が分(わ)からなかった。雨(あめ)は優(やさ)しいし、私(わたし)に興味(きょうみ)があると思(おも)った。

次の日、雨はメーリと話さなかった。町に行って、町に住んでいる人と話した。色々なことを探した。雨はメーリの家族がどんな家族で、お金があるかどうかについて調べた。暇な時に、雨は他の女の人といちゃついた。メーリのお母さんはそのことが分かった。そして、お母さんは雨を調べた。雨は仕事がなさそうだし、いつも女の人と話しているそうだし、家族や友達がなさそうだし。家に帰って、メーリに伝えたけれど、メーリは信じなかった。「いいえ、雨さんは優しくて私の人物が分かる人だ」と言って、お母さんと話したくなかった。

それで、メーリのお母(かあ)さんは森(もり)を歩(ある)いている時(とき)に、春(はる)に会(あ)った。長(なが)い時間(じかん)話(はな)した。お母(かあ)さんは自分(じぶん)について話(はな)した。そして、春(はる)は自分(じぶん)について話(はな)した。それから、世界(せかい)や哲学(てつがく)について話(はな)した。お母(かあ)さんはその男(おとこ)の人(ひと)は頭(あたま)がよくて、面白(おもしろ)い人(ひと)だと考(かんが)えた。お母(かあ)さんはメーリのことを春(はる)に説明(せつめい)した。「あは！その女(おんな)の人(ひと)と会(あ)ったことがありますよ」と答(こた)えた、「本当(ほんとう)に優(やさ)しそうな女(おんな)の人(ひと)だと思(おも)います。私(わたし)はもう一度(いちど)会(あ)いたいんです。」

お母さんは家に帰って、メーリと話した。だけれど、鳥を助けた時に、春があまりメーリと話したくなかったから、メーリは春がしつれいだと思って、雨だけ好きだった。お母さんは「春にチャンスをあげたら。春が好きではない時は、話さなくてもいい」と言った。

メーリは春と森で散歩をして、朝ご飯を食べた。お母さんと同じように春と色々なことについて話した。その会話をした後、気が済んだ。だけれど、また雨のことを考えて、一日後で、春のことがもっとよく分かると思った。

次の日、雨と話した。雨は春の悪口を言った。そして、メーリは春について疑問を持ち始めたから、春について話したくなくなった。メーリはお母さんにも疑問を持ち始めた。と言うのは、お母さんは雨が好きじゃなく春が好きだったから。だけれど、メーリのお父さんはメーリの考えに驚いた。お父さんはメーリに話した。

「メーリ、よく考えてくれ」と言った。「雨と春はどんな人物か。春と一緒にいる時、どんな話しをするのか。雨と一緒にいる時、どんな話しをするのか。」と言った。お父さんはメーリが自分でそのことを考えなければならないと思った。

メーリは森で散歩をして考えた。木は緑だし、花はさいているし、晴れているし綺麗な日だった。メーリは分かった。「春かなあ。」と思った。